

第7期札幌市図書館協議会

第1回会議

議 事 録

日 時：平成30年3月5日（月）午後3時開会
場 所：中央保健センター 5階 第3会議室A

1. 開 会

●事務局（阿部運営企画課長） 定刻となりましたので、ただいまから第7期札幌市図書館協議会第1回会議を開催いたします。

本日は、年度末という大変お忙しい中をお集まりいただき、ありがとうございます。

私は、事務局を担当する中央図書館運営企画課長の阿部と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の出席についてですが、欠席する旨の連絡をいただいているのは高安委員です。宮間委員からは遅れて出席されるという連絡を事前にいただいております。また、荻原委員は遅れておられるようですが、参加されるとのお返事をいただいております。

出席者数は12名でして、札幌市図書館条例施行規則第27条に規定するとおり、委員の過半数を超えておりますので、会議は成立しておりますことをご報告いたします。

まず、議事に先立ちまして、本日の資料について確認させていただきます。

事前に送付している資料として、会議次第、座席表、第7期札幌市図書館協議会委員名簿、カラー刷りの札幌市の図書館2017という冊子、また、資料1の札幌市図書館協議会の概要、資料2の平成29年度利用者アンケート集計結果、資料3の平成29年度利用者アンケートの概要です。

なお、追加資料として、ことし10月に開館を予定しております札幌市図書・情報館パンフレットを机上に配付しております。

不足している資料がございましたら、事務局まで申し出てください。

◎挨拶

●事務局（阿部運営企画課長） それでは、開会に当たりまして、札幌市中央図書館長の前田より、一言、ご挨拶を申し上げます。

●前田中央図書館長 館長の前田でございます。

本日は、どうもありがとうございます。

本日は、第7期協議会の第1回目の会合ということで、お忙しいところをお集まりいただき、まことにありがとうございます。また、このたびは、札幌市図書館協議会委員のご就任についてご承諾いただき、重ねてお礼申し上げます。

後ほど改めてご説明申し上げますが、札幌市図書館は、現在、第2次札幌市図書館ビジョンに基づき、図書館の取り組みを進めているところでございますが、市民の生活や創造的な活動を支える知の拠点となる図書館を目指すとともに、生涯にわたる学習を支える場、生活や活動に役立ち、新たな活動を醸成する場と位置づけております。従前は、図書活動の支援が図書館の一番の役割でございましたが、新しい図書館では、図書活動の支援が根本であることには何ら変わりありませんが、それだけではないサービス向上にも取り組んでおります。

また、近年の取り組みといたしましては、一昨年、平成28年11月にえほん図書館を

新設いたしました。そして、ことしの10月には、都心にふさわしい図書館として、札幌市図書・情報館を開館すべく、現在、準備を進めているところです。

第7期委員の皆様には、このような札幌市の図書館の運営等に関しまして、今後、さまざまな観点からご協議いただきたいと考えておりますが、特に、平成31年度には、「さっぽろっこ読書プラン」という子どもの読書活動の推進計画の改定が予定されておりますので、これについてご協議をいただくことになろうかと思っております。

いずれにいたしましても、これからの2年間、それぞれのお立場やご経験から、ご意見やご助言を数多く、そして、積極的に賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 委員及び事務局紹介

●事務局（阿部運営企画課長） 皆様におかれましては、委員就任をご承諾いただき、まことにありがとうございます。大変恐縮ですが、辞令書は机上に置かせていただいておりますので、確認をよろしくお願いいたします。

それでは、委員の皆様の紹介をさせていただきます。

これから五十音順にお名前をお呼びいたしますので、簡単に自己紹介をいただければと思います。

それでは、今藤亜矢子様、よろしくお願いいたします。

●今藤委員 今藤亜矢子と申します。

今回、公募委員に応募させていただきました。私には中学生と小学生の息子がいますが、4月から二男の通う小学校の地域開放図書館において司書になることが内定いたしておりますので、図書館についてもっと勉強したいと思っております。

2年間、よろしくお願いいたします。

●事務局（阿部運営企画課長） 荻原啓様でございますが、遅参しておりますので、私から紹介させていただきます。

荻原様は、現在、平岡緑中学校の校長先生をされており、学校図書館協議会の会長というお立場で参加していただいております。

続きまして、今野達則様、よろしくお願いいたします。

●今野委員 今野達則と申します。

札幌市学校図書館地域開放協議会の会長をしております、清田区の清田南小学校のPTA会長もしております。協議会では、去年は副会長で、今年度から会長に就任いたしました。

私は、学校を回り、図書館のあり方を見てきました。また、親子、地域、学校の図書つながりの深さも認識しており、今、勉強している途中です。これから、いろいろとかかわっていくことになり、PTA会長も5年目となります。下の子が2年生ですので、PTAは長丁場となるかと思っております。

僕も本を読むのが好きで、子どもたちへの読み聞かせは自分の子どもにやっています。

れども、学校ではやっていなかったの、挑戦してみようと思っております。子どもたちの笑顔を含め、自分に何かできないかと思い、動いておりますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

●事務局（阿部運営企画課長） 続きまして、郷原真知子様、お願いいたします。

●郷原委員 読み聞かせの会のねこやなぎというグループの郷原真知子と申します。

このねこやなぎという会は、中央図書館で主催した読み聞かせに関する講習を修了した者が立ち上げまして、活動歴は27年になります。中央図書館を拠点に活動させていただいておりますが、昨年からはえほん図書館でもやらせていただいております。

どうぞよろしく申し上げます。

●事務局（阿部運営企画課長） 続きまして、齊藤雅紀様、お願いいたします。

●齊藤委員 齊藤雅紀と申します。

公募委員に応募させていただきました。行政書士・プライバシーコンサルタントとして、高齢の方から、日々の生活の悩みや遺言関係についてご相談を受けるのですが、インターネットにこう書いてあったというお話をいただくことがあります。しかし、私たちが日々の業務で活用している情報と違うものが多々あります。

そのような時には、インターネット上には間違っていることや古い情報も載っているのですよとお伝えします。あるお客さまには、図書館に一緒に行って、最新の本ではこのように情報が更新されていますよというお話をしたこともありました。

インターネットは便利ですが、すべての情報が正しいとは限りません。ですから、図書館の役割として、仮想空間に出回っている情報によって迷子になっている人を正しく導くというのでもいいのかなと考えています。そのような観点から図書館行政に参加させていただければと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

●事務局（阿部運営企画課長） 続きまして、下田尊久様、お願いいたします。

●下田委員 藤女子大学の下田尊久と言います。

第6期からかわらせていただいております。大学は、図書館情報学と情報リテラシーの教育を担当しております。前期ではいろいろと学ばせていただきましたが、この2年間もよろしく申し上げます。

●事務局（阿部運営企画課長） 続きまして、鈴木明美様、お願いいたします。

●鈴木委員 皆様、こんにちは。

私は、ここからすぐ近くの資生館小学校に入っている子育て支援総合センターという主に子育てサロンを年中無休で開催しているところで担当課長をしております。

サロンの中でも読み聞かせのボランティアの方などに何組かお越しいただいて、利用者に向けて読み聞かせを行っていただいております。皆様とはそのことなどについてもお話をしたいと思いますので、よろしく申し上げます。

●事務局（阿部運営企画課長） 続きまして、高倉嗣昌様、お願いいたします。

●高倉委員 桑園の地で私立のバリアフリー子ども図書館を運営しております高倉と申し

ます。

私の図書館でありまして、共同募金会以外からはこれといった支援を受けず、独立独歩でやっております。どういうことをやっているのかは2年間をかけまして詳しくPRさせていただきますので、どうかよろしく願いいたします。

●事務局（阿部運営企画課長） 続きまして、きょう欠席されております高安敦子様です。高安様は、和光小学校の校長先生でございまして、お立場としては札幌市社会教育委員として参加していただくことになっております。

続きまして、豊田恭子様、お願いいたします。

●豊田委員 豊田恭子といます。

私も前期から参加させていただいております。ふだんは一般企業の社員としていろいろなリサーチの仕事を在宅でやっております。しかし、情報提供サービスをするだけではなく、公共図書館の人にもっと頑張ってもらいたいという思いがあり、ビジネス支援図書館支援協議会に参加し、ビジネス支援やリサーチをしております。先ほどネットに載っている情報が全てではないという話がありましたけれども、そういった情報提供サービスを図書館でもっとできるのではないかとこのような活動しております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

●事務局（阿部運営企画課長） 続きまして、福田都代様、お願いいたします。

●福田委員 今期から協議会のメンバーとして参加させていただきます北海学園大学の福田と申します。

ふだんは大学で図書館司書の養成コースを教えております。大学、大学院とも図書館情報学でしたが、論文は余り書いておりません。ただ、検索すると私の研究テーマが出てきますし、高倉先生が主催されるふきのとう文庫の諮問委員もさせていただいております。

私は、大学の教員になる前に、ユネスコの専門職員として、ベネズエラとスイスで図書館に勤務しました。パリ本部に行きたかったのですが、あきがなかったのです。ただ、5年間、海外の図書館で働いたというだけです。

そこでは、特に教育関係の資料が中心で、アフリカのある国の識字率は何%かというようなことをお答えするような仕事をしておりました。これは公共図書館の仕事ではなく、今の教育職についてから公共図書館のことを学ばせていただき、現場の人も声も聞いているような状況です。

下田委員や豊田委員や高倉委員は大分前からの知り合いですし、吉岡委員には本学の非常勤で来ていただいて、お世話になっておりまして、知っている方々もおおり、ちょっとほっとしております。

どうぞよろしくお願い致します。

●事務局（阿部運営企画課長） 続きまして、本日おにくれてくる予定ですが、宮間利一様です。用務が終わり次第、見られると思いますので、そのときに自己紹介をお願いしたいと思います。

続きまして、吉岡亜希子様、お願いいたします。

●吉岡委員 吉岡亜希子と申します。

父親ネットワーク北海道という市民団体の事務局長と札幌子育てネットワークという市民団体の事務局長をしております。私は、家庭支援、子育て支援の立場から委員を務める役割かと思っております。

仕事は、大学の非常勤講師をしており、福田委員のいる北海学園大学にも行っておりますが、春からは北海道文教大学に行くことになりました。子ども発達学科でして、子育てや子どもの幼児教育、保育の面から発言できればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

●事務局（阿部運営企画課長） ありがとうございます。

あわせて、本日出席している私ども図書館の職員を紹介させていただきます。

私は、先ほど申し上げましたが、企画運営課長の阿部と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

●事務局（太田サービス利用課長） 利用サービス課長の太田と申します。よろしくお願いいたします。

●事務局（石田調整担当課長） 調整担当課長の石田と申します。どうかよろしくお願いいたします。

●事務局（岩井中企画担当係長） 企画担当係長の岩井中と申します。よろしくお願い致します。

●事務局（浅野図書・情報館担当係長） 図書・情報館担当係長の浅野と申します。よろしくお願いいたします。

●事務局（池田えほん図書館長） えほん図書館長の池田と申します。よろしくお願い致します。

●事務局（綿貫調査相談係長） 調査相談係長の綿貫と申します。よろしくお願いいたします。

●事務局（織田地域支援係長） 地域支援係長の織田と申します。どうぞよろしくお願い致します。

●事務局（森情報化推進担当係長） 情報化推進担当係長の森と申します。よろしくお願いいたします。

●事務局（久保図書館サービス係長） 図書館サービス係長の久保と申します。よろしくお願いいたします。

●事務局（武田総務係長） 図書館協議会の事務局を担います総務係長の武田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

●事務局（阿部運営企画課長） 以上となります。

今、荻原委員が到着いたしました。

自己紹介をお願いいたします。

●荻原委員 初回から大幅に遅くなり、申しわけございませんでした。第6期に続きまして、第7期も図書館協議会委員に任命していただきました札幌市学校図書館協議会会長の荻原と申します。

私の勤務する学校は平岡緑中学校でして、北広島市の大曲に隣接している地域でございます。閑静な住宅街に建っており、都心部から離れております。そのため、いろいろな意味で、図書館について考えていかなければならない部分も多い地域でもございます。ただ、教育熱心な部分ですので、援助が受けやすいところです。

何分、力のない男でございますので、一生懸命やらせていただきますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

●事務局（阿部運営企画課長） ありがとうございます。

本日は、2時間程度を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

議事に入らせていただく前に、図書館協議会の位置づけについて説明いたします。

資料1をご覧ください。

当図書館協議会は、図書館法第14条及び札幌市図書館条例第11条の規定に基づき設置するものです。

この協議会は、図書館の運営に関して館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕について館長に対し意見を述べる札幌市の附属機関です。

委員の任期中は、地方公務員法の規定により、特別職の公務員の扱いとなりますので、皆様には守秘義務が課せられますが、ご了承ください。

また、この図書館協議会は、情報公開の趣旨に照らしまして、原則、公開することになっており、会議の内容についても、会議録を作成し、公表することになりますので、ご了解いただきたいと思います。

さらに、当協議会において決する事項については、札幌市図書館条例施行規則第27条に基づき、出席委員の過半数をもって決することになります。

なお、傍聴につきましては、この協議会のための規定はございませんが、札幌市教育委員会傍聴人規則を準用することとしております。

本日は傍聴人がおりませんが、傍聴は可能ということです。

3. 議 事

●事務局（阿部運営企画課長） それでは、議事に移ります。

まず、会長、副会長の選任についてです。

会長、副会長の選出までの間、仮議長として中央図書館長の前田が議事を進行させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

●事務局（阿部運営企画課長） ありがとうございます。

それでは、前田館長、進行をお願いいたします。

●事務局（前田中央図書館長） それでは、今、事務局からお話がありましたように、会長、副会長の選出をしていただくまでの間、私が進行を務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

会長、副会長の選任について、まず、事務局から説明をお願いいたします。

●事務局（阿部運営企画課長） 会長、副会長については、札幌市図書館条例施行規則第26条第1項の規定により、委員の互選で選んでいただくことになっております。

●事務局（前田中央図書館長） 今説明がございましたように、委員の皆さんの互選でお決めいただくこととなりますが、ご推薦などはございませんか。

●豊田委員 会長には下田委員を推薦させていただきます。

●事務局（前田中央図書館長） 今、豊田委員から会長には下田委員との推薦がございましたが、ほかにございませんか。

●吉岡委員 副会長には、前期の第6期も務められた荻原委員を推薦いたします。学校図書館と公共図書館の連携は重要だと思いますし、今回、さっぽろっこ読書プランの改定もありますので、どうかお願いしたいと思います。

●事務局（前田中央図書館長） ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●事務局（前田中央図書館長） ただいま、下田委員を会長に、荻原委員を副会長に選任する案が出されましたけれども、いかがでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

●事務局（前田中央図書館長） それでは、下田委員には会長を、荻原委員には副会長をお願いしたいと思います。

それでは、下田会長、荻原副会長は、大変恐れ入りますが、それぞれ所定の席へのご着席をお願いいたします。

〔会長、副会長は、所定の席に着く〕

●事務局（前田中央図書館長） 以後の議事の進行は、図書館条例施行規則第26条第2項の規定によりまして、会長は協議会を代表し、総理することとなっておりますので、この後は下田会長をお願いいたします。

●下田会長 よろしく願いいたします。

最初に、ご挨拶を申し上げたいと思います。

私は、第6期札幌市図書館協議会に参加させていただき、今回が2期目となります。第6期では、生涯学習社会の中で札幌市図書館が果たすべき役割などについて議論してきましたが、この第7期においてもさらに深めることができると考えております。

何分、こういう役割は得意ではありませんが、皆様といろいろと議論できればと思いますので、よろしく願いいたします。

なお、荻原副会長は前期も務めていらっしやったので、心強いところです。

では、議事を進めてまいります。

議題1の札幌市図書館の概況説明について、事務局から説明をお願いいたします。

●事務局（武田総務係長） 私から札幌市の図書館の概況について説明いたします。

今回2期目の方もいらっしやいますので、既にご存じの内容も含まれますが、再認識という意味でお聞きいただければと思います。

それでは、当館の統計資料として発行している「札幌市の図書館2017」をお配りしておりますが、こちらを見ていただければと思います。

1ページから2ページをご覧ください。

まず、札幌市の図書館の沿革です。

昭和25年に市立札幌図書館条例が公布され、同年5月11日、時計台に初めて市立札幌図書館として開設されております。その後、昭和42年に北2条西12丁目に移転し、名称を札幌市立図書館と改称しております。

昭和50年代に入ってから、昭和54年に札幌市立図書館を札幌市中央図書館と改称したほか、同年7月の菊水図書館の開設を皮切りに、現在の地区図書館の設置が始まりました。また、平成9年の清田図書館の開設をもって地区図書館が全区に配置されました。

なお、最初に開設された地区図書館である菊水図書館は、この年の3月に移転し、名称も東札幌図書館として現在に至っております。

中央図書館については、平成3年に現在の場所に移転オープンいたしました。それまでは、澄川図書館を初めとして、それぞれが単館のシステムで動いておりましたが、中央図書館のオープンを期して、中央図書館、地区図書館、区民センター図書室をつなぐコンピューターオンラインシステムが完成しております。

平成18年4月には、開館日、開館時間を延長し、現在の運用体系となっております。それまでは、毎週月曜日と月末金曜日を休館としておりましたが、年末年始や蔵書一斉点検のほか、休館日は第2・第4水曜日の2日間のみといたしました。

開館時間についても、中央図書館は平日夜8時まで、地区図書館は、火曜日、水曜日、木曜日は夜7時まで延長するなど、より多くの方がご利用しやすいようにサービスを拡大いたしました。

また、同年8月には、地下鉄南北線大通駅のコンコースに大通カウンターを設置しました。蔵書がある施設ではありませんが、交通の利便性が高い都心部にあり、仕事や学校帰りの際や買い物のついでに本の予約や受け取り、返却サービスをご利用いただけます。

さらに、平成20年8月にはインターネットでの図書の予約を開始しております。現在、市内42カ所の図書施設はオンラインで結ばれているとともに、貸し出し資料の物流システムを整備しております。このため、市内のどこでも本を借りられることはもちろん、返却することもできますし、予約本についてもどこでも受け取ることができます。

この物流システムは、年末年始などを除き、毎日、全図書館施設へ配送を行っております。

すので、予約した本の在庫がある場合には、通常、二、三日でご希望の図書館に届くような仕組みとなっております。

なお、視聴覚資料は4館のみで所蔵しておりますが、同年11月には、視聴覚資料を所蔵している四つの図書館以外でも貸し出し、返却、予約ができるようになりました。

その後、平成24年に第2次札幌市図書館ビジョンを策定いたしました。また、平成26年4月には中央図書館が本の森をテーマに閲覧室のリニューアルを行い、同年10月には電子書籍の貸し出しを開始しております。

そして、平成27年11月にさっぽろっこ読書プランを策定し、平成28年11月にはえほん図書館がオープンさせるとともに、ことし10月には札幌市図書・情報館をオープンいたすべく、準備中でございます。札幌市図書・情報館の詳細については、後ほど説明させていただきます。

なお、現在、中央図書館は、昨年8月から大規模改修工事を行っており、外壁やアトリウムの天井、エレベーター、トイレなどの衛生設備や冷暖房などの空調設備が新しくなるほか、照明をLEDにしているところです。このほか、当初の予定にはありませんでしたが、図書室などの床のカーペットも新しくしております。

このため、図書館自体は休館中ですが、臨時カウンターにて予約本の貸し出しや返却業務を行っており、4月1日には、一部の外回りの工事は残るものの、通常業務を再開する予定です。

次に、機構と職員についてです。

詳しくは46ページに記載がありますので、そちらをお開きください。

現在、中央図書館は、運営企画課、調整担当課、利用サービス課の3課体制となっております。各地区館は運営企画課付、えほん図書館は利用サービス課付となります。

なお、平成29年5月日現在の職員数は、全員で161名です。

続いて、47ページの予算についてです。

図書資料購入や管理運営に要する一般経費と各年度の事業を行うために要する政策的経費がありまして、平成29年度は合計で17億1,628万円でした。

次に、利用状況についてです。

資料は戻りますが、6ページをごらんください。

28年度の利用状況、統計の実績が出ております。蔵書冊数ですが、現在、約270万冊です。そのうち、児童図書は約65万冊程度で、登録者数は約43万人、そのうち、児童登録者は約7万4,000人です。また、貸し出し冊数は、7ページに記載がありますが、約640万冊です。

続いて、12ページをごらんください。

図書館資料の相互貸借件数の推移です。これは、道内あるいは国内の図書館との協力体制でして、北海道立図書館、公共図書館、北日本図書館連盟加盟館、国立国会図書館などと協力しており、28年度は、借り受けが3,016件、貸し出しが5,105件です。

先ほど沿革で触れましたが、図書館の運営方針についてですが、大きく二つございまして、49ページをごらんください。

先ほどの館長の挨拶にもありましたが、「第2次札幌市図書館ビジョン」の概要が掲載されております。平成24年度からの10年間の図書館の方針を策定したものでして、50ページに、第3章といたしまして、基本理念と基本方針が書かれております。基本理念は先ほど館長がお話ししたとおりですが、それを実現させるため、三つの基本方針を定めております。さらに、その下ですが、施策の方向性を定め、その方向性のもと、取り組むべき項目を33定めております。

この細かいご説明は割愛いたします。

続いて、56ページをごらんください。

こちらが図書館運営方針の一つですが、第3次札幌市子どもの読書活動推進計画である「さっぽろっこ読書プラン」の概要です。これは、平成27年度からの5年間の計画でして、子どもの読書活動の推進に関する法律に基づく市町村における施策として策定したものでして、子どもが自主的に楽しく読書する習慣を身につけるとともに、読書活動を通じて、みずから学び、みずから考え、みずから行動し、人生をより深く生きる力を育む環境づくりをすることとなっており、詳しくはこちらは57ページの第3章の計画の基本的な考え方に記載しております。

これらを進めるため、基本目標を三つ定めております。そして、その下にそれぞれ基本方針を定めており、取り組むべき項目を67定めております。

今回は、数も多いため、体系のみ触れさせていただきました。中身については、図書館の施策について今後活動を考えていくほか、次の計画のもととなるものですので、ぜひご一読いただければと思います。

●下田会長 ありがとうございます。

概要についてのご説明をいただきましたが、ご質問等がございましたらお願いいたします。

●豊田委員 私は、委員になって3年目でして、札幌市の図書館の冊子を毎年いただいているのですが、どういう方向に図書館が動いているのか、数字を見てもすぐわかりづらいのです。

この間、新聞に1人当たりの貸し出し冊数の平均値が出ていたのを見たのですが、札幌市は北海道全体の平均より低いと出ていて、そんなことがあるのかと驚いたのですね。これだけの人口密集地で、これだけ図書館が利用されているように見えるのですが、全道平均より低かったのです。ですから、指標のとり方として、全部でこうでしたというのではなく、人口当たりなど、見やすくしたほうがいいのかと思います。

そして、これから第2次図書館ビジョンに基づいて質的な向上を目指すこととなります。今までは量でしたけれども、これからは質的なものを求めていくとすれば、それをどうやって数値化するか、何をもって成功とし、何をもってできなかったのかを考えないと、こ

ういう統計のとり方をしても見えないと思うのです。

これはこれでずっと続けていたことだし、行政にとっては統計を継続的にとることは大事だと思うのですが、今後は考えてもいいのではないかなという感想を持ちました。

●下田会長 これについて何かございませんか。

●事務局（武田総務係長） 今までとってきたものは続けさせていただきたいですが、今後はもっと見やすい数字のあらわし方について検討させていただきたいと思います。思うところがあればお伺いしたいと思いますので、ご意見等をいただければと思います。

●下田会長 ほかにございませんか。

●事務局（阿部運営企画課長） それでは、宮間委員がいらっしゃいましたので、自己紹介をお願いいたします。

●宮間委員 所用がございまして、おくれました。大変申しわけございません。

今回、初めてこういう席へ出ささせていただきました。図書館のことに関心がございまして、いろいろと勉強させていただきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

●下田会長 それでは、ほかにございませんか。

今の豊田委員のご指摘のことはとても大事なことだと思っております。それをどうしたらいいかについて考えていただくためには、この協議会でいろいろな方からいろいろな意見を言うことが一番いいと思いますので、忌憚なくご意見をいただければと思います。

●吉岡委員 豊田委員のご指摘には私も賛同いたします。

いろいろな統計の出し方があると思うのですが、例えば、1人当たりの予算です。札幌市は人口が多いので、1人当たりになるとかなり低い数字がどうしても出てしまい、それを小さな自治体と比較するのは難しいところがあると思います。そこで、図書館の充実にに関して、政令指定都市間ではどうかというのもありかなと思っております。

●下田会長 ほかにございませんか。

私が言っただけではいけないかもしれませんが、統計は統計だと思います。決まった形になっているのはわかりますが、どう評価するかということです。先ほどありましたとおり、人口当たりで考えるというのであれば、札幌市では1区20万人おりますので、1区当たりで考え、道内の他の自治体とどう比較できるかを見ることは大事だと思います。

また、ここには要約されていますけれども、図書館ビジョンの基本方針が三つありますし、さっぽろっこ読書プランにも目標がありますが、この目標と数字がどういうふうにかみ合っていくのかを出していただくと議論しやすいのではないかと思います。

いかがでしょうか。

●豊田委員 追加です。

今、地区単位とおっしゃいましたが、それもすごく重要だと思っております。札幌市は、前にこの協議会でも言ったと思うのですが、中央館と地区館ですごく差があると思うのです。札幌市とって全体をまとめるとそれなりに活動しているように見えるのですけれども、地区単位にしたときに結構問題なのではないかと思うところがあるのですね。

今、会長がおっしゃったように、1区でも北海道のちょっとした市レベルを超えるぐらいの人口がおりますので、統計を区単位で出さないと見えづらくなるのではないかと思います。

●下田会長 このことについてほかにご意見はありませんか。

●齊藤委員 確かに、おっしゃるとおりだと思います。私は中央区の旭ヶ丘に住んでいるので、中央図書館を利用しています。ほかの区に行ったときにはその区の図書館を利用しますが、中央図書館とは雰囲気が違うのです。活気も違うし、暗いところもあるし、本のディスプレイも素っ気無く感じて、この違いは何なのかと思うことがあります。それは、地域のカラーなのかなという受け取り方をしていました。

●下田会長 これからの協議会の中ではそのあたりを視点に持っていただければと思いますが、この後、利用者アンケートの結果についてがありますので、今いただいた質問は頭に入れながら、議題2の平成29年度の利用者アンケートについてに移りたいと思います。

それでは、ご説明をお願いいたします。

●事務局（岩井中企画担当係長） 早速ではありますが、平成29年度利用者アンケートについて説明させていただきたいと思います。

このアンケートは、先ほども説明にありましたけれども、「第2次札幌市図書館ビジョン」において、進行管理及び評価の手法の一つとして利用者の要望や満足度をアンケート調査に把握するもので、毎年実施しているものです。

資料2の平成29年度利用者アンケート集計結果、資料3の平成29年度利用者アンケートの概要の2種類をお配りしておりますけれども、資料2をもとに説明いたします。

まず、1ページの実施概要をごらんください。

今回のアンケートの実施場所は、中央図書館、えほん図書館、九つの地区図書館の全部で11館となっております。回答数は、平成29年度はより一層の正確性を確保する観点から、昨年度と比較しまして、配付枚数を総数で960枚ほどふやしております。中央図書館は480枚、えほん図書館は240枚、地区図書館は各館160枚ずつの合計1,440枚で、全館を合わせ2,160枚を配付し、1,955の回答をいただきました。全体の回答率は90.5%という高い回答率となり、昨年の88.7%よりも若干アップしております。

次に、2ページと3ページをごらんください。

回答者の年齢構成です。

中央図書館と地区図書館を比較いたしますと、20代が極端に低いこと、60代以上の高齢者の割合が高いところは共通です。また、10代以下が約1割となっており、昨年度と同様の傾向です。えほん図書館については、子育て世代の20代から40代が多く、その中でも30代の利用が半数を占めています。

また、回答者と一緒に来た子どもについて、資料3の7ページに円グラフで示しておりますが、0歳から5歳までの就学前児童が54%と半数以上を占め、次いで6歳から12

歳までの小学生が9%となっております。これは、アンケートの回答をいただいた方々の年齢構成でして、来館者の構成をあらわしているものではありませんが、ある程度の目安にすることができると考えております。

次に、4ページをごらんください。

年代別の満足度の割合についてです。

年代別に満足度がどれぐらいかを見ておりますが、10代以下及び20代、30代、70代以上が91.4%を超える高い満足度となっており、そのほかの年代についても80%を超える高い満足度となっております。昨年度は、90%を超えたのが10代以下のみでありましたが、全年齢層で満足度が高まる結果となりました。

年代別の満足度の各館比較についてです。

中央図書館、えほん図書館については、全ての年齢層で90%を超える満足度となっております。地区図書館については、10代以下及び20代、30代、70代以下が90%を超える満足度となりました。3館を比較いたしますと、えほん図書館の満足度がどの年齢層でも高い傾向がうかがえます。

次に、5ページをごらんください。

全体的な満足度の推移を記載しております。

教育委員会においては、生涯学習部、学校教育部、中央図書館の3部がありまして、それぞれの部で行っている事業の点検、評価を、毎年、教育委員に評価していただいております。これが議会への報告につながっております。中央図書館からは成果目標として図書館の利用満足度を報告しておりますので、こちらの全体的な満足度の数字が一番注目されるものとなっております。平成30年度までに90%とすることが目標と設定されております。

平成28年度と29年度を比較しますと、中央図書館においては、「満足」「やや満足」を合計した数字が、74.8%から93.1%と、大幅に上昇する結果となっております。地区図書館につきましても、28年度の86.3%から29年度は90.0%と、3.7%上昇しております。えほん図書館につきましても、平成28年11月開館のため、今年度が初めての調査となっておりますが、「満足」「やや満足」を合計した数字が、97.1%と、非常に高い結果となっております。

次に、6ページをご覧ください。

中央図書館、えほん図書館、地区図書館全体としては、83.5%から91.4%と、7.9%上昇しております。満足度については平成24年度から下がり続けておりましたが、平成27年度に下げどまりの傾向が見られ、平成28年度以降は上昇し続けております。また、今は青色の折れ線グラフのお話をいたしました。赤色の折れ線グラフは「不満」と回答した割合でして、27年度以降は減少傾向が続いております。今年度は上昇となりましたが、その要因として考えられますのは、今年度からアンケートを開始したえほん図書館が97.1%と非常に高い満足度であったことが挙げられます。

そのほか、昨年度と異なるのはアンケートの実施手法でして、昨年度までは、各館によ

ってカウンター配布のみであったり、記載台等の設置のみであったり、やり方にばらつきがありました。そこで、今年度からは共通のルールを設けて実施してみたところです。今年度は、カウンターでの配布を行いつつも、カウンター利用者以外の意見も集約できるよう、記載台等への設置も義務づけて実施しております。

こうした取り組みにより、全体の意見が把握できるようになったことも満足度が上昇した要因の一つにあるのではないかと考えております。そのほか、寄贈本の処理を迅速にできる体制の整備や資料購入費の効果的執行のため、所蔵及び複本の有無、各分野の所蔵バランスを踏まえて選定することとし、新刊購入に当たっては、他館の発注状況の確認を徹底するなど、札幌市の図書館全体として複本が多くならないように調整してきたところです。こうした取り組みによりまして、中央図書館や地区図書館の満足度が上昇したのではないかと分析をしているところです。

今年度は、中央図書館が改修工事で臨時カウンター対応となるなど、利用者に提供できるサービスが限られた中で実施したアンケート調査であり、当初は満足度が落ちるのではないかと心配していましたが、反対に大きく上昇する結果となっております。

ただ、今年度の中央図書館の状況としまして、サービスが限定されており、恒常的に来る熱心な利用者の割合が高い中での調査結果でもありますので、来年度以降、どう推移するのかを見きわめながら、高い満足度が維持できるよう、より一層のサービスの質の向上を図ってまいりたいと考えております。

次に、7ページをごらんください。

図書館職員の対応についてです。

この項目は全体の満足度とも大きくかかわっている項目であるため、着目して見ているところです。この項目における「満足」「どちらかといえば満足」と合わせたものの推移についてはごらんいただいているグラフのとおりでして、中央図書館、地区図書館ともに昨年と比較して伸びが見られました。また、中央図書館、えほん図書館、地区図書館のいずれの施設においても90%を超える高い結果となっております。

次に、8ページをごらんください。

項目ごとの各館比較についてです。

どの館においても、本の種類・数、本の探し方や調べ物の相談、図書館内の設備、図書館職員の対応、全体的な満足度については、半数以上の方が「満足」「どちらかといえば満足」と回答しております。えほん図書館につきましては、子どもの成長に応じた本やイベントなどの充実度、図書館内の設備がほかの2館と比較いたしますと高くなっております。

全体として、行事の充実度、子どもの成長に応じた本やイベントなどの充実度、電子書籍の種類・数についての満足度が低い状態となっております。ただ、これらの項目については、「わからない」「無回答」が非常に多い項目でありますことから、これらの方を除いた割合で見ますと、行事の充実度の満足度が87.6%、子どもの成長に応じた本やイ

イベントなどの充実度は86.7%、電子書籍の種類・数は71.6%となっており、各サービスの利用者の満足度が低いわけではないことがわかったところです。

館内の検索機や自宅などからのインターネットを活用した検索・予約システムの使いやすさについては、中央図書館が77%と高い満足度となっておりますが、そのほかの2館は全体を下回る満足度となっております。この傾向は今年度に限った傾向であり、恐らく、中央図書館については、改修工事中、ネットによる予約をした本の貸し出しとなっていたことから、予約システムを使いなれた方が多かったからこのような結果になったのではないかと考えております。

なお、当該項目についての「わからない」「無回答」を除いた利用者だけの割合は、全体として満足が88.9%、中央図書館、えほん図書館、地区図書館の満足が90%前後となっており、システムを利用している方の満足度は高い状況にあります。

9ページをごらんください。

アンケートの自由記載にありましたその他の意見、要望等についてです。

自由記載意見にある、蔵書の種類と数の増、蔵書の配架の工夫、利用者のマナー、トイレの環境改善を求める意見は例年どおりとなっておりますが、イベントやお薦めの本の紹介、予約本の待ち時間の解消、蔵書検索システムの機能向上についての意見が昨年度より多いと感じました。今年度については、購入リクエストの方法についての意見が複数寄せられたのと、中央図書館で8月から大規模改修のために臨時カウンターでの対応となったことから、当該工事が早く終了することを望む意見が多く寄せられました。

アンケートの各項目を全体的に見渡してみますと、「わからない」「無回答」の多い項目は、行事の充実度、子どもの成長に応じた本やイベントの充実度、電子書籍の種類・数になっておりました。これらの項目については利用していない方が多いという実態をあらわしていると思われ、今後も、それぞれ魅力あるものとなるよう、より一層の努力が必要であると感じているところです。また、これらの項目ほどでないにしても、図書館だよりや中央図書館ホームページによる情報提供の項目においても「わからない」「無回答」が比較的多いことから、この分野についても力を入れる必要があると考えております。

平成29年度利用者アンケート集計結果についての報告は以上とさせていただきます。

●下田会長 ただいまの事務局からの説明について、先ほどともつながるかもしれませんが、ご意見があればお願いいたします。

●今野委員 10ページについてです。

東札幌は「不満」との回答が30%近くあったのが改善され、7%ぐらいになっているのですね。このように大きく変わったところについての考察はありませんか。

●事務局（岩井中企画担当係長） 東札幌図書館について、どうしてこのような結果になったのかという話をさせていただいたことがあるのですが、その際、昨年度のアンケート調査の際は、外壁工事中の大騒音の中という環境もあり、単純な比較はできないものですが、全体的な満足度が上昇したのではないかというコメントをいただいております。

そのほか、東札幌図書館で力を入れているところがありまして、今年度から子ども向け映画会のほか、健康や芸術の関係の大人向けの映画会をやっており、その認知度が上がり、上昇したのではないかと分析しております。

また、目的の本を探しやすいよう、本の並べ方にも一工夫を加えているようで、そういうところが評価されたのではないかと考えております。

●今野委員　そういう大きく変わったところは考察で書いてもらえると助かりますので、お願いいたします。

●事務局（岩井中企画担当係長）　わかりました。

●下田会長　ほかにございませつか。

●郷原委員　8ページの円グラフについて、子どもの成長に応じた本やイベントなどの充実度は中央図書館でも低いのですが、ボランティアが担っている読み聞かせも含まれているのでしょうか。

えほん図書館は満足度が随分高いのですが、中央図書館は低いのです。私たちは中央図書館を拠点に活動しているのですが、どうなのでしょう。

●事務局（岩井中企画担当係長）　読み聞かせなどの行事も含まれておりますので、そういうことになります。

●郷原委員　読み聞かせをしているときに、アンケートをもらったというお話を聞いたことはないのですね。どこで配付しているのかがわからないので、教えてください。

●事務局（岩井中企画担当係長）　年間を通してやっていませんで、10月の2週間で実施しております。そのときにイベントがあれば、カウンター配付以外にも設置型でのアンケートもやっているのです、そちらで回答されているものもあるのかと思います。

ただ、ここでの満足度というのは、「わからない」や「無回答」という回答も入ったのパーセンテージになっておりますので、実際に行事に参加した方について考えれば、満足度はもう少し上がるのではないかと考えております。

●下田会長　ほかにございませつか。

●吉岡委員　7ページの図書館職員の対応について、中央図書館がぐっと上がったのは工事期間が関連しているということでしたでしょうか。

●事務局（岩井中企画担当係長）　サービスが限られた中だったということ、そして、熱心な利用者といいますか、図書館のファンが多く利用していたということで高評価だったのではないかと思います。カウンター業務しかやっていない中での評価になりますので、限定的になったのかもしれない。

比較対象にはならないかもしれませんが、同じような傾向が区民センター図書室などでも見られまして、機能が限定されますとこうした傾向になります。

●下田会長　ほかにございませつか。

先ほどの今野委員のご発言との関連で、10ページの全体的な満足度で見ると、急激に不満が減ったものもある一方、新琴似、清田、澄川、曙については不満の割合がふえてい

るように見られますけれども、それについての分析はありますか。

●事務局（岩井中企画担当係長） 例えば、新琴似では、本の種類と数の満足度が低くなっているところが大きく関係します。そのほか、全体の満足度を下げた要因として施設面があります。例えば、平成27年度にトイレの改修を行ったのですが、その改修により狭くなったという苦情が多くなりました。この点について改善ができるものかどうか検討をしております。

●下田会長 ほかにございませんか。

●齊藤委員 基本的な質問かもしれませんが、アンケートをとる期間は、10月1日から31日までのうち2週間に集中させる意味はあるのでしょうか。また、どうして年1回なのでしょうか。

●事務局（岩井中企画担当係長） 年1回にしている理由は特にありませんが、同じ時期に見てきた経緯がありますので、回数をふやすとなると、統計上、同じ見方ができなくなるということもありますので、現行のビジョンの結果として見るのは1回とさせていただきます。

●下田会長 きょうは、初回でして、十分に資料を見ていないということがあるかもしれません。ただ、今後の協議会でいろいろと議論をしていく上では、これがベースになりますし、次のことを考える材料にもなりますので、十分に分析、評価していただき、次回にご意見をいただければと思います。図書館としてもそのような準備をされるのではないかと思いますので、今回のアンケート調査についてはこれで終わらせていただいてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

●下田会長 それでは、札幌市図書・情報館について、事務局からご説明をお願いいたします。

●事務局（浅野図書・情報館担当係長） お手元のパンフレットをご覧ください。

図書・情報館はことしの10月7日曜日にオープンいたします。建物の竣工は5月末です。

裏表紙の建物の概要をご覧ください。場所は北1条西1丁目にあります。高い建物と低い建物がございますが、これを合わせてさっぽろ創世スクエアと呼びます。私どもの施設が入るのは低いビルのほうです。高い建物のほうには、テレビ朝日系放送局や朝日新聞などが入居予定と聞いております。また、右側のほうの建物には、札幌市文化芸術劇場というニトリ文化ホールの後継施設が入ります。そして、札幌文化芸術交流センターという、市民のアート活動を支援するところがございまして札幌市図書・情報館はそのセンターと合築で、1階と2階に設置されます。入り口は創成川を向いておりますが、高層棟側からも入れます。

1枚めくってください。

まず、概要です。

札幌市図書・情報館のコンセプトは、貸し出し機能に重点を置いた一般的な図書施設とは異なり、調査相談、情報提供に特化した課題解決型図書館であります。最近、全国の図書館界でも「課題解決型図書館」という概念が多く語られるところですが、言い換えますと、市民の方々には読書のために来館される方も多くいらっしゃいますが、何らかの課題を解決するために図書館に行かれる方も多数いらっしゃいます。図書・情報館の主なターゲットはそのような方々となります。

事業内容は大きく三つありまして、①仕事や暮らしに関する図書・情報提供、②札幌の魅力発信、③知的空間の創出です。

最初の①仕事や暮らしに関する図書・情報提供につきましては、ワーク、ライフ、アートの分野での図書や情報を提供していきます。ワークはビジネス、仕事に関する情報提供、ライフは、健康問題、法律問題など、くらしの課題を扱います。また、芸術劇場と合築ですので、アートの情報も発信する予定です。

そして、このほかに関連機関との連携がございます。ビジネスに関していいますと、図書館の役割としては、利用者が求める情報を提供するということだと思いますが、経営相談や暮らしの関係の相談のうち、深い内容のものについては、市内に専門機関がございますので、そちらにきちんとつないでいきます。その連携のかたちとして、館内で共催セミナーを開催したり、臨時相談窓口を開設したりすることも考えております。

また、札幌の魅力発信については、かなりの方が来訪されるという予想を立てております。図書・情報館では30万人、プラザ全体では100万人を想定しておりますが、そうした方々に対して札幌の魅力を発信していくこととなります。こちらについては後でお話しいたします。

さらに、知的空間の創出についてです。図書・情報館では、会話を可能にしておりますし、IT環境も整えており、交流も含めていろいろなふうに使っていただく準備をしております。

1枚めくっていただきたいと思います。

平面の見取り図があり、紫色っぽい枠で囲ったところがありますが、こちらはScartsモールと申しまして、交流プラザ全体のメイン動線と思っていただければと思います。劇場は4階にありますので、多くの方はこちらを通過して行かれますので、右手に図書・情報館を見ながら上に上がっていくと想定しております。パンフ上の概要図、ガラス戸の内側の左側からピンク色、青色、黄色となっておりますが、ピンク色のところはカフェでして、Morihikoというカフェが入居することが決まっております。真ん中の青色のところは、165平米のイベントを開催できるスペースです。今申し上げたピンク色と青色のところは文化芸術交流センターの管理でして、各種連携しながら事業を行うこととかなろうかと思っております。

1階部分は黄色い部分になりますが、こちらは札幌の魅力発信を行います。もちろん、札幌に関する書籍、地域関係の資料を右と左の本棚に置きます。また、右側の端の壁のと

ころに大きな絵のようなものがありますが、こちらは55インチのディスプレイ9枚の張り合わせた大きなディスプレイでして、こちらに札幌の魅力をあらわした映像を流すなどを考えております。

真ん中は、ソファなどを置いて、サロン仕立てになっております。今、情報というのは、本だけではなく、データベースなどのデジタル情報、あるいは人から直接お話を聞くことも大事だと考えております。ですから、ここでは最新の情報を伝えていただくため、皆さんでお話を聞きますかというようなカジュアルなセミナーをやりたいと思っております。

また、手前のベンチが左から緑色、赤色、黄色とあり、その先に展示台が三つございます。平面図ではオレンジ色のところですが、最近、書店では、本の展示やパネルをあわせて行うものがありますが、そのような方法でこちらに札幌の魅力に関連した書籍などを展示したいと思っております。

また、1階には、大通駅構内に貸し出しカウンターと同様な機能を持つ、小ぶりなものを設置する予定です。

続いて、1ページめくっていただければと思います。

こちらは、2階です。

1階は300平米、2階は1,200平米です。パンフ上の概要図の青色とピンク色とオレンジ色のところですが、ワーク、ライフ、アートと分けられ、書籍や新聞、雑誌などを設置する予定です。

右側の平面図を見ていただきたいのですが、二等辺三角形の形のリサーチカウンターがございます。私どもではいろいろな情報を取り扱いますが、初めて来た方など、「どういう資料を調べていいのかわからない」、「こういうものを探している」ということがあれば司書に聞いていただけます。パンフ上には想定相談例として、著作権に関する判例を調べたい、外食産業に関する雑誌を調べたいを載せております。

そのほか、座席数をかなり確保しております。図の下のものは1人がけで使えるものです。また、奥の右の丸いグループ席は3人で使えるものですし、ミーティングルームは10人程度で使えます。そして、手前のサロンの空間は交流してもらおうことを考えております。

なお、座席については、システムを導入して、来館前にスマートフォンなど、ネットで予約できるようにしたいと思っておりますので、来てみて席がなかったということはないかなと思います。

利用にあたっての特徴をお話しいたしますと、常に最新の情報資料をお伝えのため、閲覧のみで、館外への貸し出しはいたしません。ご存じのとおり、本の貸出期間は2週間ですので、1冊の本に10人以上の予約が入ると半年は戻ってこないという状況がございます。こちらで取り扱う情報は、ビジネス、あるいは、健康、病気に関するものであり、最新の情報をお伝えする必要があることから館内での利用のみをお願いしていきます。

また、ビジネスパーソンの利用が多いだらうと考えており、調べもののほか、打ち合わせで使っていただきたいため、会話も可としております。Wi-Fi環境を整えていますし、コンセントなどもございます。カフェも併設しており、飲み物も自由です。

もともと、こちらの施設を考える原点は市民交流プラザという交流拠点に設置されることとあります。人々が集まって情報や知恵を交換するところに図書館の情報サービス、ITサービスを追加するというにより豊かな知的空間を創ることができると考えております。今後とも皆様からいろいろとご意見をいただき、都心にふわさしい情報拠点、知的空間をつくっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

●下田会長 ただいまの説明に対して、ご質問やご意見等はございませんか。

●高倉委員 2点あるのですが、一つは、職員の方が詰めておられるような空間はどこかです。もう一つは、札幌市の図書館2017の46ページの組織図からいくとどんな位置づけになるのかです。

●事務局（浅野図書・情報館担当係長） 1点目についてお話しいたします。

利用者向けのパンフレット上のグレーで囲まれているところです。

●事務局（武田総務係長） 組織について、総務からご説明させていただきます。

ただいま開館準備中として、46ページに機構図が載っておりますけれども、調整担当課についております。この機構図は古いものでして、平成29年5月1日現在では、利用サービス課に図書・情報担当係があり、ここで担当しているところです。

このように利用サービス課についておりますけれども、業務は調整担当課と調整しながらやっているところでして、平成30年4月1日に機構を改正する予定で、調整担当課の下、運営企画課の中の調整担当課の企画担当係の下につくこととなります。

こちらの施設は30年度中に開館するのですが、年度途中で機構改正はできませんので、31年度からのものは30年度に検討していくことになります。

●高倉委員 ということは、当面、館長は置かないのですか。というか、館長のような役割の方は次の組織改正までは置かないのですか。

●事務局（武田総務係長） 今は館が存在していないので、館長はおりませんが、図書・情報館担当係の係長が図書・情報館の館長になるという想定です。ただ、これも規定の改正がございますので、それを行うこととなります。

細かい組織については、10月7日の開館ですので、直前あたりに係の名称変更になるかと思いますが、協議会にもご説明させていただきたいと思っております。

●下田会長 ほかにございませんか。

●福田委員 まだ開館もしておりませんし、今から心配することではないかもしれませんが、警備体制と2階の創成川を眺めるリーディングルームについてです。私が利用者だったら、ここに弁当を持ち込んで居眠りしそうですが、そういう対策については想定されているのでしょうか。また、警備員は何人ぐらい置くのでしょうか。

●事務局（浅野図書・情報館担当係長） 警備については交流プラザ全体で行うものです。

詳細は詰めますが、十分なセキュリティーが保たれるものと考えております。

また、先ほどの説明が足りず、申しわけありませんでした。会話は自由ですが、リーディングルームでは、集中して資料を利用させていただきよう、お話をご遠慮いただくことにしております。

●福田委員 会話は不可なので、当然、1人利用になると思うのですが、うっかり居眠りしたり、いびきをかき人が出たらどうしますか。大学時代、1人で図書館に来て、居眠りする学生も見たことがあるのですね。年齢に関係なく想定しないといけないと思います。いずれは、ドラえもんの世界のように、ロボットが巡回して、もしも寝ている人の肩をたたき時代になると思うのですけれども、静かに利用すると眠気も発生するので、どうするのかと思いました。

●事務局（浅野図書・情報館担当係長） そういった利用者は中央図書館にもおられる気がいたしますが、まずは「大丈夫ですか」とお声がけすることになるかと思っております。

劇場でもそういう想定はしておりまして、観覧中に具合が悪くなる方が出ることもありますので、危機管理の対策や救護室も含め、全体で考えているところです。

そして、先ほどのご回答に加えてですが、1階は飲食自由ですが、2階は食はご遠慮いただこうと思っております。また、リーディングルームも半分ぐらいは予約席にしようと思っております、お時間が参りましたら退席いただくことを考えております。

●福田委員 制限時間があるのですか。

●事務局（浅野図書・情報館担当係長） 今後、検討し、一定のご利用時間を定めたいと思っております。

●下田会長 ほかにございませんか。

●郷原委員 貸し出しをしない書籍が入るとのことですが、児童書や絵本も入るのですか。

●事務局（前田中央図書館長） 説明不足でした。

もともとの事業の内容として、仕事や暮らしに関する図書情報提供となっております。こちらの図書館は都心にふさわしい図書館という仮称もついておりまして、都心に集う人たちは働いている人や札幌を来訪される方々であろうと想定し、事業を組み立てました。また、施設がかなり狭隘になりますので、小説や絵本のコーナーは設置しない予定でございます。

●下田会長 ほかにございませんか。

●吉岡委員 札幌の魅力発信ということがありました。今は外国人の方が随分いらっしゃっているのですが、ここでいろいろな情報を得られるとなると、外国人の方がかなりいらっしゃることが想定されると思うのですが、そのあたりはどういうふうにお考えでしょうか。

●事務局（浅野図書・情報館担当係長）

まずは、映像は言葉に関係なくわかっていただける一つの手段かと思っております。それ以外のインバウンド対応については、そのいらっしゃる国々にも動きがありますので、実態を見ながら、適切な内容を検討したいと考えております。

●下田会長 ほかにございませんか。

●豊田委員 期待も大きいし、不安もいっぱいというところでしょうが、頑張ってください。

貸し出しについてご質問がありましたけれども、実際のオペレーションになったとき、一番混乱するのはそこかなと危惧しています。

二つ質問があって、一つは、1階のフロアの一番奥に、大通カウンターではありませんが、本の貸し出しをするカウンターを設けるわけですね。でも、手前に並んでいるディスプレイされている本は貸し出さないのですね。だから、その辺は気をつけないといけないかなと思います。オープンな空間をつくりたいということはわかりますが、そのこの区別が大変かなと思います。

もう一つは、調査を充実させて、いろいろなレファレンスに答えていこうとしているのは本当に頑張してほしいのですが、実際のレファレンスはいろいろな本を駆使しながら答えていくことになると思いますし、そこに来の方々の質問もいろいろだと思います。しかし、スペースが小さいので、この中だけで利用者の答えを用意できないことも結構あるのではないかと考えております。そういったときには、結局、中央図書館や地区図書館などと連携し、本を取り寄せることもあり得るのではないかと考えているのです。

そうすると、中央図書館から持ってきた本は貸し出し可能にするのですか。その辺のオペレーションが利用者にとってもわかりにくかったり、情報提供する側としてもわかりにくくなることもあり得ないかなと考えております。

多分、ふたをあけたときの柔軟性というか、フレキシビリティというか、毎日のディジションメイキングが物すごく重要になると考えております。もちろん、いろいろなシミュレーションはやって、ある程度の決まりをつくって、こういうふうに運用しようとすると思うのですが、予想外のことが起こると思うのです。ただ、そのとき、こう決めたはずだということにこだわらないでいただきたいと思います。毎日毎日変わってもよくないのでしょうかけれども、最初の印象はとても大事で、うわさを聞きつけ、テレビかなんかで見て寄りましたというとき、何だ、使えないと思われるのか、楽しくて、これからも使いたいと思われる施設になるかにかかわります。それこそ、利用者満足度ではありませんが、館長も含め、いかに毎日来るお客さんに対応するかは考えてほしいと思います。

●事務局（浅野図書・情報館担当係長） ご指摘をありがとうございます。今、行っていたこと、全てが課題だと認識しております。

貸し出しの件については、貸し出し不可とわかるよう、本にシールを張ろうと思っておりますが、普通の図書館とはかなり違いますので、掲示やパンフレットでも親切に周知することは大事だと話しております。

また、図書・情報館で回答が完結するものもないというのは私どもも思っていて、中央図書館に協力を得られなければ、解決が図られない課題も多く存在すると思っておりますし、専門図書館協議会には2年前ぐらいからお話をさせていただいており、資料の存在に

ついて情報交換をすることを検討しております。

最後に、いろいろな利用者が来ることについてですが、対応に関する情報は館内の職員で共有し、まとめて、札幌市の図書館全体として考えたいと思っております。

●下田会長 ほかにございませんか。

●齊藤委員 これは、モデルケースがどこかにあるのですか。それとも、札幌のオリジナルなのですか。

●事務局（浅野図書・情報館担当係長） 司書や職員の視察として、全国の図書施設を見学させていただいたのですが、そのものずばりというものは公共図書館ではないかと思えます。

例えば、六本木の森ビルの中に企業が設置しているライブラリーがありますし、九州には経済界が立ち上げたBIZCOLIという名前のビジネスパーソンの交流をメインにしたライブラリーがありまして、そういったものが一部の前例になろうかと思いますが、公共図書館としてここまでのものをやるのはかなり新しい部類かと思えます。

●下田会長 ほかにございませんか。

●今藤委員 こちらの図書館は専門書がたくさんあるところのようですが、専門書というのは高価なものだったり貴重なものだったりすると思うのですが、盗難防止についてはどのような対策をいたしますか。

●事務局（浅野図書・情報館担当係長） 札幌市の図書館においては、えほん図書館でも導入済みですが、ICタグを全ての本に張らせていただきます。こちらの空間の入り口全てに盗難防止装置をつけておりますので、それで防止したいと考えております。

●下田会長 ほかにございませんか。

●宮間委員 調査相談コーナーについてです。

最近、特にリタイアした人が起業を志したり、NPOをつくったり、そういう要望が結構多いと思うのです。そういう意味では、このコーナーは非常に役に立つというか、期待できるものではないかと思えますので、ひとつよろしく願いいたします。

●事務局（浅野図書・情報館担当係長） ビジネスと申しましても、会社組織だけではなく、NPOも、個人で起業される方もいると思えますので、ビジネス支援というより、働き方全般をサポートしたいと思っております。

●下田会長 ほかにございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

●下田会長 いろいろなご意見が出ていたと思いますが、図書・情報館に関しては、ワーク、ライフ、アートというかなり欲張りな新しい図書館構成かと思えます。豊田委員が指摘されたように、これでカウンターで本当に仕事ができるかなという部分はあるように思います。ただ、先ほどご指摘があった国際的な対応については、この中でやるのではなく、通りを挟んで国際プラザがありますので、そこも緊密な連携をとってガイドして差し上げるサービスも大事でしょう。また、医療・健康情報に関して、ここでやるのは大変

ですし、体制づくりが大変だと思いますので、そういったところについても検討の中に入れていただきたいと思います。

いろいろなことが出てくるとは思いますけれども、そろそろ時間も近づいておりますので、きょうのところはこれで締めたいと思います。

これで予定されていた審議は終わりましたが、全体を通して何かございませんか。

●吉岡委員 協議会のことではないので、記録していただかなくてもいいのですが、今回の第7期協議会の審議事項に「さっぽろっこ読書プラン」の改定についてが入っておりますよね。自分なりに事前に勉強してこの場に臨んでいるのですが、心もとないところもあるので、会長に音頭をとっていただいて、事前に勉強できる機会があればうれしく思います。

●下田会長 確かに、沿革の中にも出てきましたが、「子どもの読書活動推進計画」、「第2次札幌市図書館ビジョン」、「さっぽろっこ読書プラン」に関しては、これが柱になって次のステップに行くと思いますので、何かいい方法があればと思います。

ほかにございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

●下田会長 それでは、事務局から連絡事項をお願いいたします。

●事務局(阿部運営企画課長) まず、次回の協議会についてです。

今のところ、日程はまだ定まっておられませんので、決定したら別途ご連絡を差し上げます。次回は、中央図書館の大規模改修が終わり、平常業務に戻っておりますので、中央図書館の研修室で開催したいと思います。

また、交通費について、請求書等の事務処理が終わっていない方は総務係長のところに立ち寄っていただければと思います。

4. 閉 会

●下田会長 それでは、きょうの第1回会議は終わりたいと思います。

慣れない司会でしたが、いろいろと意見も出ましたし、何とか決められた時間に終われました。

これで閉会いたします。

どうもありがとうございました。

以 上